

～ 魚釣りを環境教育として実践しようと考えている方々へ ～

指導者の心得

この教材を基盤として、環境教育の実践をご検討いただきありがとうございます。
実践いただくにあたっては、ぜひともこの「心得」をご一読ください。

1. 「七つの要素」すべてを含んでこそ「釣り」である。必ず七つ実践すべし。

1. 「釣り」は、遊び一。このなかに、海の自然を学ぶ謙虚な姿勢を持ち、食や食物連鎖に関わる概念的な活動だと認識すべし。

魚の生態や習性、潮汐や潮流の理解など海の自然が学べ、さらに命と食の関わりと大切さ、人も食物連鎖のなかにあるという概念を学ぶ。

1. 大切なのは指導者の自然に対する謙虚な姿勢であり、子どもたちに対する真摯な態度である。

1. 釣りを釣果で押し量ってはいけない。釣らせるために安易に便利な仕掛けや道具を使わないで！！

1. 安全第一。実践時には必ずライフジャケットを着用するか、いざという時のために救命浮き輪などの浮力体を準備すべし。

*この教材は釣りという活動を、環境教育として実践するにはどのような視点や観点が必要か一。と、いう考えに基づきまとめたものです。

2018年1月19日

フィッシングメッセンジャー 野澤 鯛損